

一般社団法人 和乃絆

令和二年度

事業報告書

就労移行支援事業所マイパレット
自立支援教室ひだまりカフェ
就労定着サポート室あしたば

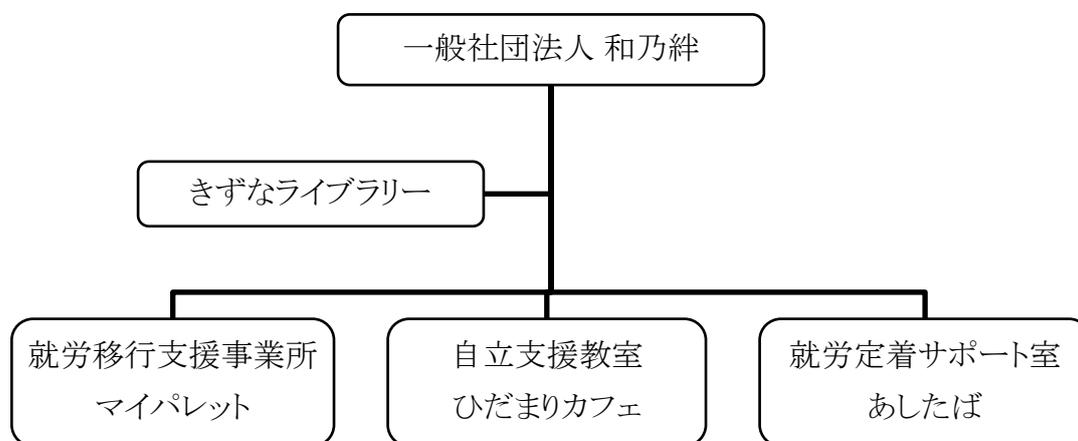
内 容

1 法人の指針・概要.....	2
2 事業所名及び所在地.....	3
3 従業者の人数・人員配置.....	3
4 契約利用者数.....	3
1)就労移行支援事業所マイパレット（令和3年3月31日時点）.....	3
2)自立支援教室ひだまりカフェ（令和3年3月31日時点）.....	4
3)就労定着サポート室あしたば（令和3年3月31日時点）.....	4
5 事業報告.....	5
1)就労移行支援事業所マイパレット.....	5
① 事業所内作業.....	5
② PC技能訓練.....	5
③ 施設外就労.....	6
④ 工賃実績.....	6
⑤ 企業等実習・就労体験.....	6
⑥ 職業訓練.....	7
⑦ 事業所内活動.....	7
2)自立支援教室ひだまりカフェ.....	7
① アウトリーチ(訪問活動).....	7
② 生活訓練.....	8
③ 事業所内作業.....	8
④ 工賃実績.....	8
3)就労定着サポート室あしたば.....	9
① 職場定着に向けて.....	9
② ジョブコーチや他機関との連携.....	9
4)きずなライブラリー.....	9
① まちライブラリー.....	9
② おもちゃ図書館.....	9
③ 地域に開けた事業所作りについて.....	9

1 法人の指針・概要

運営理念 “自己理解、自己研磨、自己決定を支えていく”

当法人の理念「自己理解、自己研磨、自己決定を支えていく」の精神に則り、より具体的な行動、考え方の基準として制定したものです。役員、従業員一人ひとりが、この行動規範に掲げた趣旨を尊重し、一般社団法人 和乃絆の一員として、また社会人として、法令の遵守はもちろんのこと、良識ある行動をとり、社会的責任を果たしていくよう一層努力してまいります。



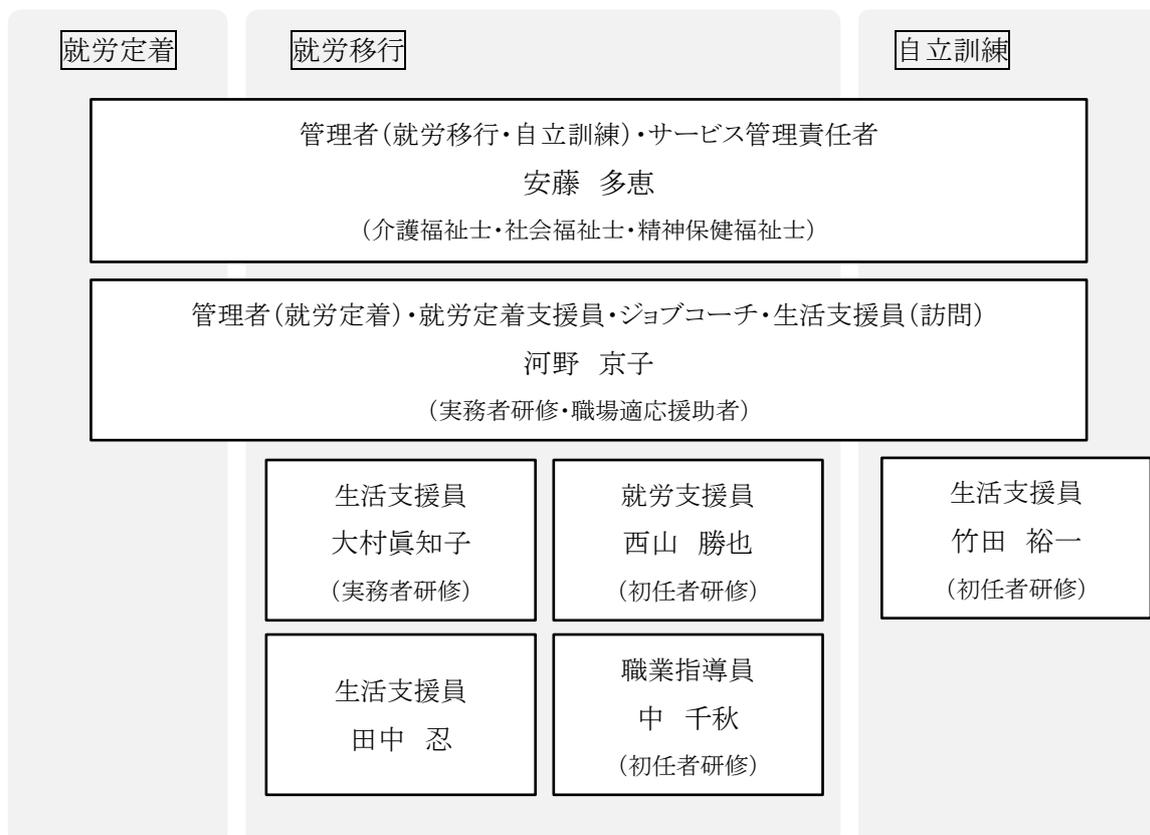
行動規範	I. 社会とのコミュニケーションの促進を図ります II. 個の力を最大限に発揮し、かつ尊重し合います III. 高い透明性と公正な姿勢に基づき行動します IV. 必要とされる事業を実施し、社会への責任を果たします
------	---

事業別理念	就労移行	就労移行支援事業所マイパレット 社会人に必要な資質を獲得できるよう支援します。できないこと、苦手なことに自ら対策を講じることができるような人材育成を目指します。
	自立訓練	自立支援教室ひだまりカフェ 自分以外の存在全てを広く「社会」と捉え、社会生活の第一歩を踏み出すために、必要な訓練を講じ、社会人に必要な資質を獲得できるよう支援します。
	就労定着	就労定着サポート室あしたば あしたばの葉は、「摘んでも明日には芽が出る」といわれるほど成長の早い植物、摘まれてもまた生えてくる、そんな明日への活力を支えるため支援します。

2 事業所名及び所在地

就労移行支援事業所マイパレット	就労移行支援	☎641-0013 和歌山市内原726-13 電話:412-8010 FAX:412-8011
自立支援教室ひだまりカフェ	自立訓練(生活訓練)	
就労定着サポート室あしたば	就労定着支援	
きずなライブラリー	(地域交流)	

3 従業者の人数・人員配置



常勤職員	6名	計 8名
非常勤職員	2名(1名は事務補助)	

4 契約利用者数

1) 就労移行支援事業所マイパレット (令和3年3月31日時点)

のべ利用者数	利用定員	現在利用者数
40名	13名	9名

一般就労者数		
のべ一般就労移行者	就労継続中	離職
26名	20名	6名
		福祉的就労 4名
		一般就労転職 1名
		ほか 1名

		平成30年度	令和元年度	令和2年度
就労移行支援事業所 マイパレット	新規利用者数	5名	6名	8名
	一般就労(就職)	7名	7名	2名
	ジョブコーチ	計12(5)名 ※()内は法人外ケース	計22(13)名 ※()内は法人外ケース	計22(7)名 ※()内は法人外ケース
	福祉的就労	0名	0名	2名
	途中退所	0名	0名	0名

2) 自立支援教室ひだまりカフェ (令和3年3月31日時点)

のべ利用者数	利用定員	現在利用者数
8名	7名	5名

自立支援教室 ひだまりカフェ	新規利用者数		5名
	見学見込者数		1名
	一般就労		1名
	福祉的就労		3名
	途中退所		0名

3) 就労定着サポート室あしたば (令和3年3月31日時点)

のべ利用者数	利用定員 (現時点での職員配置より算出)	現在利用者数

	5名	10名	5名
あしたば 就労定着	新規利用者数		2名
	就労継続中		4名
	途中離職		1名

5 事業報告

1) 就労移行支援事業所マイパレット

① 事業所内作業

今年度は、株式会社ヤエパック、株式会社デファクト・スタンダード(ブランディア)からの業務委託を中断したまま、復帰の目途は立っておりません。中断の理由としては、取り組む体制に限界があり、安定した業務委託継続が難しいためです。他事業との合同で取り組んだとしても、具体的に赤字を脱して納期がこなせる体制作りは難しいものと思われます。株式会社オージス総研から委託されているリサイクルパソコン業務(はじまるくん)は、前年度と同程度量で目立った変化はありません。今年度はコロナ禍の影響で、贈呈式などは取りやめになりましたが、単価も委託量も例年並みです。小久保工業所からの内職軽作業の委託分については、自立訓練との棲み分けが不明確なものの、安定した納品が叶っており、大きな変化はありません。チラシや名刺などDTPの委託業務が、前年度も今年度も単発で繁雑に発注ありましたが、職員が対応に入る場面が目立ちました。これは、前年度の反省がそのままの状態です。

協力先: 小久保工業所、NPO法人わたぼうしくらぶ、社会福祉法人きたば会、
海南・海草圏域自立支援協議会、株式会社オージス総研(はじまるくん)
相談支援 hana、宮本病院、和歌山サムライ、竹あかり実行委員会

② PC技能訓練

例年と同様、「日本情報処理検定」の検定試験に取り組み、主にWordとExcel操作の訓練を週2回、主に月・金の午後に実施しました。日本情報処理検定試験は、年2回(7/10、12/11)にそれぞれ実施しました。ただ、コロナ禍の影響もあり、事業所外の受講者はいませんでした。アビリンピック(障害者技能競技大会)では、今年初めて「表計算」部門が実施されましたが、地方大会で敗れ、全国大会は無観客での開催でした。また、前年度から試験的に開始している名刺管理や職員のタイムカードなどの業務を職業訓練の中で一部取り入れる取り組みについては、対象者が安定しておらず、数回実施するに留まっています。

日本情報処理検定		利用者	ほか	計
----------	--	-----	----	---

	7/10	7名	1名	8名
	12/11	12名	0名	12名

※1名が2つ受験した場合は2名と計算しています

③ 施設外就労

指導員が引率し、実際に企業に出向いて就労を行っています。平日の午前中に、紀三井寺公園の清掃業務を請け負いました。株式会社KUSUNOKIからの委託業務については、支援体制や訓練スケジュールの組み立てが困難となり、前年度末で委託業務を中断しています。同時期に共同で委託業務を請負していたあすなる共同作業所も委託業務を終了しています。施設外就労先の確保や工賃の安定を図るには、安定した作業量が必要不可欠ですが、事業所外とも綿密に連携して取り組む体制作りを模索する必要を感じています。令和元年度の平均月工賃は20,609円でしたが、コロナ禍の影響もあり、出勤率の低下から今年度の平均月工賃は減少しました。計算の基準である単価は変更していません。

協力先: 紀の国はまゆう

④ 工賃実績

4月	5月	6月	7月	8月	9月
10,540	7,525	8,068	9,190	6,563	7893
10月	11月	12月	1月	2月	3月
9,794	11,178	11,678	9,803	12,989	16,100
のべ工賃支給人数		10名	月平均	10,110	

⑤ 企業等実習・就労体験

就労体験の実施件数は、前年度と比較すると大きく数を減らしました。また、一般就労移行者も大きく数を減らしています。前年度の反省でも出ている就労体験の機会を設ける機会が減少といった課題が、コロナ禍でさらに深刻になったものです。企業営業のあり方などを大きく見直す必要があり、今後変容が予想される求職活動の変化に対応すべく、直接足を運ぶことだけに頼らない開拓を模索している最中です。ただ、利用者さんの多くは住み慣れた地域で就労することを希望しており、コロナ禍の中であっても地域に目指した企業との連絡体制を確立していくことから逸れないでいきたいと考えています。来年度は、関係機関だけでなく、地域企業との独自の連絡網を確立すべく、求職者など対象者がいなくとも連絡共有を図るなど連絡の頻度を高めていきたいと考えています。

企業等実習および就労体験受入事業所

(株)タカショーデジテック、和歌山大学キャンパスサポートルーム、秀英塾、
(株)剂盛堂、きいちゃん食堂

⑥ 職業訓練

職業センターの講習に一部参加するなどの取り組みはありましたが、コロナ禍の影響を受けて他機関との協同は困難な状況が続きました。また、「ペン習字」の取り組みは、講師を工面できなくなり、夏頃から休止しています。リモートにも対応した職業訓練のシステム導入を検討していますが、高度な学習を求める層とごく基本的な学習を学ぶ必要のある層との差異が著しく、活用には限界があり、導入に至っておりません。障害福祉に特化したサービスではなく、企業研修などのクラウドサービス導入を再検討しているところです。資格取得援助については、簿記検定の希望者が在校生にも卒業生にもありました。ただ、自主学習の教材提供のみの支援に留まり、踏み込んだ支援には至っておらず、資格取得には当事業所だけでなく、外部委託の方法を探る必要があると考えています。

⑦ 事業所内活動

調理実習、農業体験や家庭生活などの取り組みは前年度終盤からずっと実施できていけません。「SST」の時間が自然と多くなっている状態ですが、中には自立訓練の利用者さんと合同で取り組む時間もあり、座談会のような形式になってしまう時間も多く見受けられました。自然発生的に生まれる会話の中で課題が発掘される場面もあるものの、体系的に学ぶ体制作りからはより離れた状況になっています。職業訓練と同様に利用者さんの取り組むべき内容にも差異があり、人数の調整が難しく、職員体制にも限りがある中ではあるものの、可能な限り個別性の原理に基づいた活動を組んでいくことを目指す必要を感じています。今年度は、障害特性に特化したプログラムをテーマにしていく方針でしたが、今後は求職活動に有意義と思われる一般的なテーマをいかに個別に対応させていくかという工夫を凝らしていくことを目指していきたいと考えています。

2) 自立支援教室ひだまりカフェ

① アウトリーチ(訪問活動)

相談はあるものの、利用に至る対象者ではなく、まだ他機関につなぐことができていないケースは前年度でも見受けられましたが、今年度は相談継続しつつも他機関へつなぐことが一部のケースで実現し、中には当事業所の利用に至ったケースもありました。地域への訪問活動はコロナ禍の影響もあり、当面見送る方針です。ただ、一度でも対面での面談ができたケース

では手紙やメール、SNSを活用して本人との連絡が可能になったケースもありました。対面しないアウトリーチの方法も検討していく必要性を感じています。

② 生活訓練

午前中は調理に継続して取り組んでおり、生命活動や地域生活を維持していくのに自分から食事や衛生面などに取り組む必要性を体感的に学ぶ機会を提供できました。ただ、昼食として提供できる形を目指す必要があり、職員がしばしば調理の補助に集中してしまい、生活訓練の視点を見失う、手が足りない場面も認められました。どの利用者さんも職員と一緒にやることでようやく取り組めるといった状況にあり、それぞれの利用者さんに合わせて任せておける部分をどう作っていくのか、教具や掲示物、補助具、あるいは意欲を掻き立てる手立てを検討していくことが今後の課題です。

午後は、本人の希望に沿って取り組んでいるものの、個別性を追求するあまり、対応に手が回らない状況が続きました。今後は、いくつかの訓練メニューを提示して、そこから選ぶといった仕組みも必要かもしれません。また、就労移行のプログラムに参加する利用者さんもいるものの、目的意識があって参加しているわけではなく、人恋しさや手持無沙汰で参加しているようすが窺え、就労移行との棲み分けをどう行うか整理していく必要があると捉えています。

③ 事業所内作業

工賃支給は出来高であり、予定していた就労移行支援事業所マイパレットで請け負っている紀の国はまゆうからの清掃業務への参加も実施できました。実際に作業に従事してから工賃として支給されるまでにタイムラグがあるため、実感できるまでに時間を要するものの、労働の対価として工賃があるということは、出来高にしていることで、より効果的に理解しやすくなっているようです。DTP作業なども一部は実施できましたが、利用者さんだけで自立する作業には限りがあり、責任感の芽生えには課題があります。特に就労移行と合同で取り組んでいる清掃業務や内職・軽作業は、自分たちで完成させなければという意識は持ちにくく、納期に縛られずに利用者さんに合わせた取り組みを図るべく、今後は自主製品の開発に取り組んでいく予定です。今年度は、ドリップパックの試作などに取り組んでいます。

④ 工賃実績

4月	5月	6月	7月	8月	9月
2,500	2,150	630	6,050	3,070	4,018
10月	11月	12月	1月	2月	3月
4,890	3,292	3,690	4,010	5,220	4,219
のべ工賃支給人数		7名	月平均	3,645	

3) 就労定着サポート室あしたば

① 職場定着に向けて

今回、支援対象の企業でもコロナ禍の影響で、間引き勤務や出勤停止といった措置がありました。中には、他の職員が通常勤務に戻る中、業務量が確保できないといった短縮勤務が続くケースも認められました。訪問による支援が拒否されたケースもあり、定着支援のあり方を見直す必要を感じました。突然の人事異動に対応できず、離職に至ったケースもあり、有事の場面で思うように支援を実施できず、他機関との連携も困難な時期に問題が頻発した印象です。コロナ禍を契機にメールや電話、SNSを活用した連絡を試みたものの、対応できない利用者さんもあり、緊急事態宣言の中で企業側から訪問支援を要望された場面もありました。対面だけでなく、いくつかの連絡手段や対応方法を日頃から利用者さんや企業側とも確保していきけるようメールなどの活用を今後は留意して行うなど対策を検討しています。

② ジョブコーチや他機関との連携

前年度同様、ジョブコーチの配置が続くケースについては、ジョブコーチ支援を優先していく方針です。今年度は、コロナ禍で職業センターのジョブコーチが一時期間引き勤務などであったものの、電話や対面だけでなく、メールやSlackといったツールを活用することで、大きな問題には発展せずに連携することができたと感じています。

4) きずなライブラリー

① まちライブラリー

今年度は、開催を予定していた多くのイベントが中止になり、9月延期して実施したライブラリーカフェのイベントも広報を控えて、少人数での実施に留まりました。

② おもちゃ図書館

イベント開催や読み聞かせ会など予定していた取り組みがほとんど実施に至らず、今後の取り組みについて検討している状態です。

③ 地域に開けた事業所作りについて

「不登校ひきこもり相談会議」は、今年度未実施でした。発達障害者の自助会「わかやまムーン」については、4月～6月の3か月間はオンライン開催を実施し、県内外で交流の場を提供することができました。今後の展開として、オンラインイベントの開催も検討事項ではあるものの、オンラインでの取り組みは、地域に目指した、地域に開けたという目的から外れてしまうことがしばしばあり、自助会も感染対策を講じた上で7月からはオフラインでの開催を行いました。

以上